

四時しじ
(陶潜とうせん)

春水しゅんすい 四沢したくに 満みち

夏雲かうん 奇峰きほう 多おほし

秋月しゅうげつ 明輝めいきを 揚あげ

冬嶺とうれい 孤松こしょう 秀ひいず

春水満四澤 夏雲多奇峰
秋月揚明輝 冬嶺秀孤松

解説 春夏秋冬の象徴的自然を詩情豊かに詠じている。

語釈 ※四沢ししたく|| たちこちの沢。沢は湖沼。※奇峰きほう|| 入道雲のこと。
雲の峰。 ※秀ひときわたか|| 一際高くたっている。

通釈 春は水もゆたかに四方の湖沼にみちあふれ、夏はさまざまな形をした雲の峰が多くあらわれる。秋は空気も澄みわたり、月も明るい光をはなち、冬は冬枯れの嶺に、ただ一本の松が緑におおわれ、一きわ高くそびえたっている。